

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

震災を財産にするために～学校と地域の「つながり」を未来へ～(岩手県野田村)

取組事業

野田村学校支援地域本部事業

活動実施場所

野田小学校
野田中学校

取組概要

【野田村学校支援地域本部事業】

- ・ 平成22年7月に「野田小学校区学校支援地域本部」として小学校のみスタート。平成24年度から野田中学校も加え、「野田村学校支援地域本部」として、小・中学校に各1名コーディネーターを配置。
- ・ 東日本大震災津波被害により大きな被害を受けたが、地域は「学校は村の光」、学校は「野田村を照らす太陽」という意識で活動している。
- ・ ボランティア活動を4つのカテゴリー(「図書」「環境整備」「授業支援」「安全指導」)に分け組織化。地域住民と児童・生徒が直接ふれあう機会を多く設定している。
- ・ 年2回の野田村地域教育協議会で有識者からの外部評価を導入。学校教育活動への効果的な支援がなされるよう、協議会、各種団体と協力体制を構築している。
- ・ 平成28年度から評価・検証委員会を設置し、支援される側と支援をする側両方に対して満足度アンケートを実施することとしている。事業内容の評価・検証を行うことによって、よりよい事業となるよう努めることとしている。



事業成果

【野田村学校支援地域本部事業】

○ 体験活動の充実や、授業におけるきめ細やかな指導実践の向上はもちろん、地域住民との交流が増えることによって「コミュニケーション能力の向上」や「規範意識の醸成」につながり、特定の教育活動にとどまらず、全般的に効果があがっている。また、震災以降、児童・生徒が「地域のために何ができるか」を考える機会が増え、活動の必要性が以前より高まっている。

○ 「ボランティア登録者数」「活動したボランティアの延べ人数」「活動実施回数」は年々増加している。

(表1)「学校や子どもたちのためにできることをやりたい。」「以前よりも学校が身近になった。」「子や孫が学校にいなくても気軽に来られる。」といった地域の声が多い。地域にとっては、これまで培った経験や技術を活用できる場であり、住民同士が交流できる場としても広く認知され始めている。

○ 平成27年度「優れた『地域による学校支援活動』」として文部科学大臣表彰を受賞。

	実施回数(回)	延べ人数(人)	登録者数(人)
H22	21	102	25
H23	19	119	42
H24	52	359	44
H25	49	452	56
H26	69	666	69
H27	62	631	78
H28	47	758	81
合計	319	3,087	395

表1 野田小応援隊「ひかり」実施回数等の推移(平成28年11月末現在)

課題や今後の取組

(課題や今後の取組)

○ 新たな取組でボランティアを増やすということではなく、学校への支援を通して子どもも地域も笑顔にしたいとのねらいで活動してきている。

これからも人と人との「つながり」を大切に活動を展開していけるよう、事業内容等について評価・検証を進めていきたい。そして、村民一人ひとりの「心の復興」につながるよう努めていきたい。